



## I はじめに

分科会の基調は、研究大会全体の基調をもとに、協力者から提案された。

まず、ともに教育内容をつくりあげていく立場から、率直で誠実な意見交流を行うことを確認した。そして、討議の柱として討議課題の①～⑥のうち、報告内容に照らし合わせ、②と③を大きな柱として分散会を行うことが確認された。

## II 報告及び質疑討論の概要

### －報告1－②

大切な人が私の周りからみんないなくなる  
(滋賀県人教)

### －主な質疑と意見－

**三重** Aさんと友だちとの関わり、母親の死後Aさんと家族との関わりはどうなっていますか。また、Aさんにとって大事な人は誰なのか、そして今の安心できる場所、心のよりどころはどこにあるのか、教えてください。

**兵庫** 関連して、ヤングケアラー的なところに対してどのような対策を取られたか教えてください。

**奈良** 家族構成はどうなっていますか。また報告では父親との関係が悪くなったと言われましたが、その後のAさんと父親の関係、そして報告者の父親への関わり方を教えてください。また、地域の支援はどうなっているのかを教えてください。

**報告者** 家族は父親と5人兄弟で、本人は3番目です。父親は夜勤で、夜は兄弟だけで過ごすことが多くあります。家事は、兄弟で分担しており、決まっておらず、Aさんは食器洗いが苦手でそのことを話してくれました。関係機関にはまだ繋ぐことはできていないが、地域の民生委員が熱心に関わりをもってくださっています。父親はこだわりが強く、家族とぶつかることもあるが、子どもたちを大切に思う気持ちがあり、私は父親と話ができる状態です。

友人関係は、家の事も話せる仲のいい友だちが1人います。また、同じ小学校、同じ部活を中心に友だちがおり、教室に入れずにいても、教室に入った時にはグループに受け入れてもらい活動を行うことができます。また、Aさんは、気遣いができ

る子で、困っている友だちに声掛けができるので、クラスの中でも認められています。また、母親や前の養護教諭のような信頼できる大人は、まだいません。「信頼できる大人もいるよ」ということを何とか伝えられないか、そんな思いで関わっています。

進学先は、地元の高校を選択しており、父親も同じ意見です。上の兄弟も同じ高校を卒業しており、父親は看護師で、上の2人も同じ方向に進んでおり、Aさんにも同じことを望んでおられます。

**協力者** Aさんは、給食を食べるときにお母さんを思い出すというところがあるのですが、そこはどういう背景がありますか。

**報告者** 母親の料理は品数が多かったので、給食はメニューが毎日変わり、品数が多いので母親を思い出すようでした。それだけ、母親の死後は、大きく生活が変わったということだと思います。

**協力者** それでは、ここから討議に移ります。フロアの皆さんの実践を紹介していただきながら、討議課題に即した形で意見を言っただき、新たな学びの場をつくっていきたいと思います。

**福岡** 父親が亡くなって、その後母親とうまくいかず、家族がバラバラになった生徒が1年生の時に転校してきました。保護者も初めてのところで、本人も友だちがおらず、私もどうしていいかわからなかったが、亡くなった父親の代わりに一生懸命に声かけをし、友だちに繋いでいきました。そうしたら、卒業する時に「この学校で良かった」と言ってくれました。報告者のAさんを思う気持ちは伝わっていると思うので、今行われていることが大事だと思います。

**報告者** 私もコミュニケーションを取ることが大切だと思っています。そこで、Aさんの部活の大会や子ども食堂に顔を出して繋がりを深めています。

**香川** 入学時点で心配な生徒となっていたので、小学校からしんどかったということが考えられると思いますが、入学時点での学校側のよりどころ(例えば小学校とか)はなかったのか。下の兄弟も同じような環境があると思うのだが、小学校と中学校との連携はどうされているか教えてください。

**報告者** 入学当時は、私が配属されたばかりで訳が分からないまま時間が過ぎていた時でした。資料には、父親との関係が心配となっており、母親が本当に大きな存在でした。また、一番下の子は今6年生で、一度家出をして児童相談所に保護されたことがあり、その時から、定期的にケース会議を開いています。兄弟が所属する学校や市の方、関係者などで、情報共有しています。

大阪 リストカットを発見するまで授業や部活動で発見されることはなかったのか、隠そうとしていたとなっていますが、本当は見つけてほしかったのではないかと思いました。また、2年生の担任をどのように決められたのか教えていただきたい。

報告者 最初に気づいたのは友だちで、その友だちの視線の先をたどって、Aさんのリストカットに気づきました。2年生の担任については、1年時の学級担任が学校の都合で別の学年をもつ事になったので、1年間同じ学年に所属していた私が担任をもつ事になりました。当時、父親との関係が悪くなっていた時だったので、男の人を避けるようなところがあり、本当に自分で良いのかという不安もありました。

徳島 人として個人と個人で関わっていくことの大切さを改めて考えさせられました。その中で質問です。まず、報告者以外の先生で、Aさんが心許せる先生がいるのか、いたなら、報告者は知らない話をその先生にしていることはあるのか、あればその内容はどういうことか、その逆に報告者だけに話してくれた話はあるのか。続いて、長期休業中のAさんとの関わり方について教えてください。

福岡 Aさんの「ごめんなさい」と言った一言が、自分がかけた言葉がAさんを傷つけていたと気づいたところは素晴らしい。なぜ報告者は気づくことができたのか、もう少し詳しく教えていただきたい。

また、私は児童支援という立場にいるのですが、不登校の子どもたちは一人一人違う課題を抱えているので、その子どもが何を抱えているのか、本人と話したり、教職員や行政と連携したりして、地道に取り組むことが大切になると思っています。

協力者 まずは報告者以外の教師のネットワークみたいなものを教えてください。

報告者 3年間Aさんと同じ学年で過ごしてきたのが、私と学年主任の先生で、この学年主任の先生はコミュニケーション能力に長けていて、すごく関わっています。また、2年時から担任をしている隣のクラスの担任は同性ということもあり、コイバナなどをしているようですが、私にはなかなかしてくれません。

ケース会議で情報交換をして、管理職や学年主任からアドバイスをいただいて心強いです。長期休業中は、休業中でも部活動で学校に来ますので、その時に声をかけるようにしています。

協力者 事前に伺ったのですが、中学校なので、空いている先生が関わるとか、誰が空いていて何かあれば、すぐに動ける校内ネットワークをしっかりと作られているということです。

さて、先ほど「ごめんなさい」の言葉の気づきは

なぜだったか言う点はどうですか。

報告者 どのような場合でも「ごめんなさい」という言葉が返ってきて、この場合は「ありがとうございます」であると指摘しても、「ごめんなさい」が返ってくるので、何か引っかかりがあるのかなと思っていました。

奈良 子どもの心を溶かすのは教師でなく、Aさん自身であると書いてあるのですが、報告者がAさんとともに考えると、一緒に歩いていくという先生の変容がAさんの変容につながったと思います。「ごめんなさい」と言っていたAさんが、「学校嫌い帰りたい」と言ったときに、報告者はどのように捉えていましたか。

報告者 その時は悔しかったです。今も嫌いと言うのですが、遅刻をしても毎日学校に来ます。3年生では、欠席はありません。表情も少し変わってきていて、ニコツとしながら「帰りたい」と言います。今は、取組が無駄ではなかったと信じたいです。

奈良 報告者がAさんのよりどころをつくろうと目指したことを分かってくれたと思います。そしてそのことに報告者が気づいたから、報告者も変わっていったのではないかと考えました。

報告者 Aさんに「明日どうする?」と尋ねると、「明日、休む」という時は、1・2校時に遅刻してやってきて、「明日は来る」という時には、朝から登校しています。Aさん自身も何となく自分自身を理解してきていると思っています。

#### ー報告2ー①

##### ゆりあと過ごした3年間

～誰もが安心できる居場所をめざして～

(大阪市人教)

##### ー主な質疑と意見ー

福岡 報告者がゆりあに寄り添っていることが伝わってくる報告でした。そこで、報告者の成長にはどのようなものがあつたか教えてください。

香川 母親が亡くなった時、おじさんが亡くなった時にどのような言葉をかけたか、教えてください。

報告者 私自身は2年生の時に学級担任をし、1・3年生は別の者が学級担任だったのですが、2年生の時に、母親とよく話をしたり、他の教師と情報共有したりする中で、子どもたちとの会話の中に、悩みを感じ、その背景から今どのような支援が必要かを気づくことができるようになったのが、一番の成長です。「悩んでます」と言ってくれる場合は良いのだけど、「大丈夫です」という子どもたちの言葉にも悩んでいることに気づくことができるようになったと思います。

身近な人が亡くなった時の声かけですが、特別なことを言えていません。ただ、「本音を話してくれて、うれしかった」と返しました。ゆりあからは「先生に話をして、気持ちが軽くなった」と言ってくれたので、「私に話してくれたように、周りに頼りになる人がいて、聞いてくれるから」という話をしました。

**協力者** 報告の裏に隠れているしんどい思いなども読み取りながら、続けて質問をお願いします。

**徳島** 報告者がクラスの中の個と個をつなぐ様子が感じられたのですが、2年時の終わりに母親が亡くなって、一時子ども相談センターに行くことになった時に、クラスにどのように話されたのか、また戻ってきた時にどのように話されたのか教えてください。また、離れていてもSNS等で友だちと繋がっていましたか。

**兵庫** 居場所が大切だと思うのですが、ゆりあさんにとって、それが子ども食堂やファミリーホームだったのかと思います。しかし、中学卒業後は、なかなかその居場所というものがない。ゆりあさんの卒業後のファミリーホームとの関係がどのようになっているのか、卒業後どのような支援を受けているのか、大阪の状況を教えてください。

**大阪** 「周りの教員と協力して関わっていくことで、ゆりあは笑顔で過ごす日が増えていた」と書かれていますが、他の教師と協力したからこそゆりあさんが前を向けたところを詳しく教えてください。

**報告者** ほのかとは、部活動が一緒になったことで、仲良くなりました。子ども相談センターに入った時は、クラスには伝えていません。ゆりあに伝えることはないかと尋ねたのですが、「ありがとう」の一言だったので、特別に伝えませんでした。「長い休みやな」と気にかけてくれる子はいましたが、そのまま過ぎて行きました。SNSですが、おじさんが1年生の途中で与えてくれたようでしたが、あまりケイタイの話をしなかったので、分かりません。

ファミリーホームですが、18歳までいることになると思います。進学先の高校を選ぶときも、姫路のおばあさんの近くも考えたが、大阪に友だちがいるからと大阪の高校を選びました。私はその後転任したので、「中学校に来てよかった」という話をしているそうですが、少し心配しているところです。

他の教師との協力ですが、2年生の学級担任が初担任で、悩むことが多かったが、経験豊富な先生からアドバイスをいただいたり、大宮中学校ではSSWが毎日勤務されているので、相談や懇談時の金銭面の話などをしていただいたりして、大変支援していただきました。この支援があったからこそ、ゆりあが笑顔で卒業していったと思っています。このチームや、地域の人の力が大切だと思っています。

**協力者** 質問の中にあつたSSWやファミリーホームについて、人権担当の方が来られているので、詳しくお話をしていただけますか。

**大阪** 大宮中では3年前からSSWが平日フルタイムで勤務されています。他は各ブロックに1人、中学校に配置されています。4年前までは相談事があってもすぐに対応できなかったが、今はすぐに対応してもらえるので、関係機関等に繋ぐのも早くなりました。また地域の子ども食堂の件ですが、地域でも月に1回地域のネットワーク会議があって、小中学校で児童生徒の情報共有をしています。もちろんゆりあのことも話していたので、地域の方からフードバンクのことなどの話があり、支援していただき、子ども食堂にも行けるようになりました。

**協力者** これから討議に移ります。

**徳島** 報告を聞いていて、報告者が冷静にゆりあさんが自分の力で立ち上がるように寄り添われていると思います。報告者がゆりあさんに関わるときに意識していたことを教えてください。また、ゆりあさんは、今も子ども食堂に顔を出しているのか教えてください。

**香川** ゆりあさんは、家庭環境など複雑だったが、最後は高校に進学しています。学力保障という面で取り組まれたことを教えてください。

**滋賀** 校外学習の際に、不登校の生徒2人を同じ班にするというのは難しい面があると思うのですが、安心できる居場所づくりとして働きかけたことがあれば教えてください。

**報告者** ゆりあに関わるときに意識していたことですが、母親や本人からの相談があつた時には、対応について学年の先生に相談することを意識していました。本人との関わりは、学校に来てほしいという想いがあつたので、悩みの相談よりも何気ない楽しい話などを多くしました。「学校でこんなあるよ」などのような話をしていました。

子ども食堂の件は、行けていないみたいです。

学力自体は、ゆりあ自身がもともと力をもっていたので、特別なことをしていたわけではないと思います。ただ、3年生になって登校するようになって、ゆりあ自身で学力を上げていきました。

校外学習の班ですが、少しは悩みましたが、いろいろな子を受け入れてくれる子どもたちが多くいて、子どもたちを信じて班をつくることにしました。ただ、準備の時に仲間は少し苦労したようで、そのことは本人に伝えていました。そうすると本人の意欲などにつながり、班の子もゆりあに仕事を任せられることもあり、生徒たちの中で配慮していたことも大きかったと思います。

**協力者** 事前にお話を伺ったのですが、卒業後に一度ファミリーホームを家出して、おばあさんのいる姫路で保護されたということがあったそうです。その場合もSSWが繋がっていて、中学校でも何かできることはないかと動いたそうです。そういう意味でSSWの常駐は大きいと思います。

**愛媛** 今回の事例は、教育と福祉の連携がうまくいった事例だと思います。ゆりあさんは、ファミリーホームに行くときに「大宮中学校に帰りたい」と言ったと思います。そういう関係をつくっていた友だちや学校の雰囲気 genuinely 良かったと思います。その本人が、ファミリーホームにいる現状をどうとらえているかが分かれば教えてください。

**三重** 私もクラスに不登校の子どもがいて、毎日のように家庭訪問をして関わっていますが、日々試行錯誤しています。そこで、ゆりあさんが不登校になり、「迎えに行くから一緒に学校に行こう」と声をかけ、卒業時には「先生が来てくれてうれしかった」と言っているのですが、その当時の本当の想いが分かれば教えてください。また、子ども相談センターからファミリーホームに移るときに、また家出をして保護された後、ファミリーホームに帰る時、本当の想いがわかっておれば教えてください。

**報告者** 子ども相談センターから帰ってくるときの想いはあまり聞いていません。ファミリーホームも偶然大宮中学校の近くのファミリーホームが空いたので、他の学校より大宮中学校に戻りたいと言っていました。ファミリーホームの事も、少し問題があると話はするものの、本人は気を遣う方なので、本音はあまりしゃべっていません。

登校の呼びかけは、学校で他の方からもたくさん声掛けをしてもらい、本人も頑張ろうとしていたので、うまく組み合わせたとと思います。

そして本人が一番望んでいたのは姫路の祖母のところと思うのですが、他の学校より友だちの多い大宮中の方がいい、友だちがいる高校がいいと言っていて、最後は周りの人たちの影響が大きかったと思います。最後は自分で選んで進んでいたので、そこを信じたいと思っています。

**京都** 私は中学校でSSWをしています。制度として週1回・月1回と頻度が違うけれどソーシャルワーカーがほぼ全国に配属されています。ぜひSSWを使ってください。そして、現場からSSWの必要性について声をあげてください。それが常駐のSSWの配置などにつながると思います。子どもの背景を考えた時に、学校だけでは解決しないことが多く、卒業後の支援などは学校だけではできません。SSWや児童相談所、行政の支援につなげることがとても大切になってくると思います。

#### —1日目の総括討論—

**協力者** 2本の報告は、それぞれに自分自身が課題を抱える子どもと関わりながら、いろいろと繋がりをつけながら実践されてきた報告でした。学校の中での先生方の繋がり、地域との繋がりなど、繋がりという視点で自らの実践を踏まえながら意見交流をしていきたいと思います。

**高知** 二人の若い先生が子どもに関わって、子どもの変化だけでなく、関わる中でご自身が成長されたことを実感されている報告だったと思います。子どもも、これから先に振り返った時にこの関わりに感謝すると思います。しかし、この子たちが誰かに「ありがとう」を言ってもらう経験、誰かに貢献して、自分自身の存在の意味をプライドに変えていく、そういう充実感、自己肯定感にしていくのが人権教育だと思います。つまり、この子たちがありがとうと言ってもらえる場を仕組むことで、自分自身の存在に向き合うことができる、そういう経験で安定させることになると思います。報告書の中には書かれていないことが多いとは思いますが、そういう活躍の場を学校教育の中で意図的にどういうふうに作っていったかという人権教育の視点についても共有したいと思います。

**協力者** 自尊感情をどのように育てているかということだと思うのですが、皆さんの中に自尊感情を育てるための実践があればお願いします。

**徳島** 私は小学校ですが、「ありがとうカード」という実践をしています。子どもたち同士で見つける経験もあるのですが、自己肯定感が低い子どもは自分の良い所を見つけにくいです。ただ、自己肯定感が高い子どもも自分を分かっていないところもあります。自己有用感が大切だと思うのですが、不登校の子が学校に来ないと他の子に良い所を認めてもらえないことがあって、苦労しました。まずは、学校に来ることが、第一歩だと思います。

**報告者(滋賀)** Aさんは、行事が好きで頑張っています。3年生になって、他の子も含めてリーダーシップを発揮したりする場面があり、頑張った子どもたちをどう評価していけば良いかと考え、独自の賞をつくりました。賞状の裏に他の子どもたちからの言葉を寄せ書きにして渡しました。Aさんにも賞を渡すことができました。意図して仕組みづくりとなると難しいと思うのですが、Aさんはいろいろな人の仕事を手伝ったり、声掛けをしたりするので、その都度、私から「ありがとう」を伝えたり、友だちから「ありがとう」を言われたりしています。しかし、意図的な仕組みづくりはできていません。

**報告者(大阪)** ゆりあの場合は、人の前に出ることはできていなかったのですが、文化発表会の準備を手伝ってくれていました。学校の中では、いいと

ころ見つけカードの取組をしました。今の学校では、それを掲示して見える化する取組も行っています。

**奈良** このゆりあさんはかなり揺れたと思います。その中で最後に「過去のことから立ち直り」という言葉が出てきたのは、ゆりあさんが自分と向き合い自己を切り拓いていった証拠だと思います。このことは、報告者がクラスや背景をしっかりと捉えて、子どもたち同士を繋げた、子ども食堂も地域につなげた仕掛けが、ゆりあさんの成長になったと思います。そういう出会いをつなげる取組を大切にしたいと思いました。

**福岡** 一人で何とかするのは難しいと思います。報告者の取組は、まず友だちの輪を広げ、行政や民間の施設に繋げ、ゆりあさんの人と人との関わりを広げたところがすごいと思いました。だから、彼女が3年生で毎日学校に来ることができ、学校に居場所があったと思います。学校の教員だけでなく、行政などにどうつなげていくかということをしなくてはいけなかったと思います。

**奈良** 日々の向き合いが成果になり、報告者がかなり苦労されたと思い、その中に学びがあったと思います。まず、厳しい状況の時には大人が関わることになるが、報告者がいろいろと整えられていった報告に勇気と元気をもらいました。その上で、子どもたちが長い人生を切り拓いていくには、繋がりとという意味で、どれだけ相談できる相手をもつかだと思っています。それは大人だけでなく、友だちと困っている話をできる関係性をつくることも大切だと思って、私は取り組んできました。うまくいった例を報告できないのですが、横の広がりについて議論を深めていただきたいと思います。

**報告者(滋賀)** 悩みを打ち明けられる友だちは1人いますが、別の高校になりそうです。同じような友だちはまだいないので、卒業までの課題です。

**報告者(大阪)** ゆりあは2年生から横のつながりを広げていき、仲の良い友だちとも同じ高校に進学しました。しかし、この後は自分でやっていくしかないで、自分のために行動する力をつけてやれば良かったと思っています。これから助けを求め、過ごしやすい場所を広く作れるようになってほしいと思っていますが、心配もしています。

**協力者** 繋がりとということ、特に地域への繋がりで意見をいただいたのですが、あまり広げることができませんでした。明日の討論に引き継いでいただき、1日目の総括を終わりたいと思います。

#### —1日目のまとめ—

**協力者** 総括討論でもありましたが、私たちはしんどい思いをもっている子どもがいることを感じる

と、つい声をかけてしまう、何とかして助けたいと思うのは当然のことだと思います。本日の報告は、子どもたちの家庭関係や背景を共有し、関わりを深めていかれた報告でした。しかし、現場では、早く解決したいがために、子どもがおかれた立場に寄り添わない場面も時々見受けられます。子どもたちの事実を出発点にすることから請け負うことの実践の大切さを学ぶことができたと思います。指導よりも、共感と寄り添うことから始める、そこに教師の気づきと変容が重なることで子どもたちの暮らしと豊かな感性・自己表現力の育ちにつながると思います。繋がるというポイントでは、校内連携や教育と福祉の連携の話まで出てきて、重要なポイントとなる1日目になりました。

#### —報告3—②

ともだちが知ってくれたから… (奈良県人教)

#### —主な質疑と意見—

**大分** ペアやグループをつくるときに大切にしていることや、うまくいかないときにどうしているのかを聞かせてください。

**香川** ペアの期間はどれぐらいか、子どもたちの関係性で意図されているところを聞かせてください。

**大阪** B(支援学級生)がこのペアに入るという取組の中でのエピソードがあれば、具体的に教えてください。

**報告者** ペアをつくるときに意識しているのは、ペアが協力隊であることを言い続けています。「何も言わないから困る」などと言ってくる子どもには、「どうやったら協力できる?」「楽しくやったらいいよね」などという返しをしています。そうすると子どもたちは、自分だったらどうすればいいのか考えてくれました。Aは誰とでも話ができたのですが、Bは特定の子どものしか話ができなかったので、心を許している子どもからペアを組んでいき、だんだん話せる子どもを見つけて、広げていきました。全体的には最初は話すことが得意の者とちょっと苦手な者でペアを組みました。そこで、少しずつ話をするようになり、その後は得意な子ども同士で組んだり、苦手な子ども同士で組んだり、また、勉強のできる子と苦手な子をくっつけたりしました。期間は基本的に1か月に1回でした。うまくいかなかった時にはすぐに変えたこともありましたが、どう関わったらいいかを考えさせ、じっくりと見守ることを大切にしていました。そうすると、次の席がえ前には、活発に話ができるようになっていました。Aは、相手に共感したり相手に対して興味をもったりする素敵なところがあったので、ペアで関わることで相手の子がAの良さを知っていったと思います。Bのエピソードですが、休みの日のことを発表する場があったのですが、Bが自ら手を挙げたのですが、みんなの前ではやっぱり話ができませんでした。

その時にペアの子が「Bはこんなふうに過ごしていたんやで」と発表してくれ、その後のやり取りも、ペアの子がBの事を伝えてくれました。その後、好きなことを伝えることができ、ペアと話ができるようになり、後半は積極的に手を挙げました。

**三重** AやBの教育的不利な環境や背景について教えてください。また、保護者の願いもお願いします。

また、子どもを変えるのではなく、周りを変えていくことが大事だと思います。Aが人権作文を読むところで、Aに対して回りが返したことや周りからの返してAが発表して良かったと思った様子などを教えてください。AやBの事を周りに知ってもらう事は大切で、その上でAやBにこんな力をつけさせたいという取組をしたことも聞かせてください。

**報告者** Aはこども園の時から手が出ており、母親は自分の気持ちをきちんと伝えてみんなと仲良くしてほしいという想いを強く持っておられました。Bは、母子家庭で4人兄弟の2番目で、兄も支援学級に入級しており、学力的にも兄よりできると思われていて、母親に甘えたいが、それに応えてもらえない状況でした。そして、いろいろなことが過去にあって、学校を嫌がっており、教室に入れませんでした。Bのわがままな面ではないと分かっていたが、それでいいとは思っていませんでした。できないことはあるけど、できることを見つけて自分の問題として解決していってくれる力をつけたいと思っていました。そして、誰かと関わりを持ってほしいと思い、まずは小さな繋がりをつくるために教室に入ることから取り組みました。

Aの人権作文後の子どもたちは様子ですが、Aがサッカーボールを取りに行くと、みんなが「一緒にやろう」と駆け寄って行って、Aは頷いて、すごく誇らしげそうにしていました。

この子にこんな力をつけてほしいというのは、Aの場合はつけたい力ではなく、Aのことを周りのみんなに知ってほしいというのが一番でした。Bは、Bだけでないのですが クラスみんなに、「わからない」ということが言える力をつけたいと思っていました。

**協力者** この後討議に移ります。

**徳島** 私も特別支援学級を担任しているのですが、つい手を出してしまう子どもがいます。この暴力のことを扱う時に、Aさんへの接し方や周りの子どもたちへの接し方、支援の仕方について、また保護者への関わり方も含めて意識されていることをお聞かせください。

**奈良** 学校で特別支援コーディネーターをしています。4年生に自分の想いを伝えるのが苦手です。1年生の時は、Cだ

から仕方がないという雰囲気だったのですが、2年生の時にペア学習を取り入れて、あえてCと苦手な子どもと組ませました。最初は関わり方がわからなかったようでした。それは関わっていなかったからで、日常の中でどうやったらCにうまく伝えられるかが分かかっていきました。周りが変わるとCもすぐ落ち着いていきました。それでも怒ることはありました。その時に私に報告に来るのですが、子ども同士の繋がりを大切にしたいからで「Cが怒っている理由を聞いてあげて」と返していました。支援学級の子どものためにもどうしても変えられないことや苦手な事があるので、どうやったらうまく関われるかを日常の生活の中でみんなが見つけてほしいと思っています。そして子どもたちの繋がりを邪魔しない支援を心がけています。

**香川** 今のクラスで班分けをするのに、子どもたちの方が互いによく知っているのではないと考え、班分けを子どもたちに任せました。高学年で特定グループが出来上がっている中、それを打破したかったこともあり、いろんな人と関わりをもったり、喋ったりできるように組んでみてと任せると、うまく班を作っていました。いつも一緒にいる子どもと同じ班にしようとする子どももいましたが、周りの子どもがいつも一緒にいるよねと意見を出し、新たな班をつくり、新たな関係もでき始めました。

**報告者** 私は今、特別支援学級の担任をしていて、落ち着きのないクラスに入っています。いろいろな子どもたちと関わってほしいという想いをもって手立てをされていることが勉強になりました。次に学級担任をした時には実践したいと思います。

暴力のことですが、絶対的に暴力はダメだということを、誰に対しても伝え続けました。暴力を受けた子どもの本音の声をしっかりと聞いて、それを伝えました。それが、Aの場合は響いたように思います。保護者への伝え方ですが、Aの保護者には叩いている中でも良くなっている部分も伝えました。

**徳島** 高学年を受け持つことが多く、同じ環境で同じ活動で仲間外しをするのはおかしいという話をしたことがあります。また、子どもたちが混ざるように班を子どもたちに提案させたこともあります。一方で、単学級で人間関係が固定化してきていて、過去にいじめがあって、家庭間の仲も悪く、「あの子は苦手」と言われて、それじゃ距離を取ればいいと対応して、関わりを減らしてしまったこともあるのですが、このような場合に先生方はどう対応されていたか聞かせていただきたい。

**大阪** 私が持っているクラスにも同じような子どもたちがいて、何かあれば、すぐに保護者から連絡がくるという状況です。その中で、生活綴り方ということで作文を読み合い、共有するというをやっています。綴り方の中で、各家庭の事を書いてきて、

喧嘩している家庭同士でも親の温かいところを感じて、今は距離があっても、中学校になったら距離を縮めてくれないかなと思って取り組んでいます。

**三重** 私のも同じように生活綴り方を続けていて、家の方との関わりや会話とかを中心に載せていて、互いに知り合うことを心がけています。市では部落問題を考える小学生の集いというのがあって、人権学習で学んできたことを基に、自分の生活や友だちとの関わりを振り返って、どう部落問題と結びつけていくかを伝えあう活動があります。それと合わせて学校では全教職員が関わって6年生の分散会をしました。そこでは、しんどかった話やいじめをしてしまって反省しているなどの意見が出ました。お互いに言いにくいことは、本当は聞いてほしいことだと思うので、言いにくいことを言える関係づくりをしていきたいと心掛けています。

**三重** 退職教員ですが、私は綴り方を長年やってきました。取組というのは、先生自身が何のためにやるのか、というのをきちんともっているというのがすごく大事です。私は、考える力をつけるためにやりました。私は「喧嘩しても仲直りをしよう」ということを言ってきました。そして、1年生でも4人の班の中の席は子どもたちで決めさせていました。子どもたちの考えを大切にしていました。子どもの権利を尊重するのに3つのポイントがあって、1つ目は安心できるクラスをつくる、2つ目は自己決定の尊重です。考えることを大切に、自己決定する部分を子どもたちに任せました。3点目は、権力効果の緩和です。先生は学校では権力がありますよね。

知ることはすごく大事で、同和教育が大事にしている「知る」というのは、暮らしを知ることだと思っています。これはしんどいことも出し合えることだということを伝えたいです。

**滋賀** 私はどれだけ関わっているか、家庭訪問したり電話したりして、何か知りたいと行動していますが、うまくいっていないことが多いです。でも、関係をつくるのは話すことだと思っています。私も子どもたちと毎日日記のやり取りをしていてそれでも話す時間が足りなくて、いろいろと考えます。でもこの人だったら信じられる、この先生だったら信じられるという人になりたいと思って頑張っています。逃げないでいきたいと思っています。

#### －報告4－⑳

##### 子どもの自立に向けた仲間づくり

～人との関わりを通して～ (徳島県人教)

##### －主な質疑と意見－

**三重** その子の記録を取られましたか？それは、その子の責任でない部分やその子の興味関心を明らかにする必要があるからだと考えているからです。2つ目は、子どもの権利条約について取り上げる取組があったのか。報告書には「感じた。感じた」と

書いてあるのだけれど、感想から先生がそう感じるのだと思いますが、子どもの具体的な言動から子どもがどう変容したか、その事実があれば教えていただきたい。3つ目は、先生の変容で、先生自身の差別性にどう気づいて、どうしようとしているのかというのが核心の部分になると思うので、教えていただきたい。

**報告者** 記録ですが、文章としての記録はありません。Aさんの状況や保護者の思いなどについては情報共有しています。エピソードの記録については手元に残っていません。Aさんには「自分もやりたい」という思いがあるので、Aさんの頑張りに目を向けた取組を行ってきました。子どもの権利条約についての取組はまだ十分にできていません。

Aさんの頑張りを見たクラスの児童は、自分も頑張ろうという態度がよく観られました。特にAさんと仲の良かったBさんは消極的な子どもだったのですが、終わりの会で発表しようとする姿が見られるようになりました。Bさんは、前の学校で友達とのトラブルで4年生の時に単学級で育ってきたこのクラスに転校してきました。最初は学校に来にくかったのですが、Aさんの頑張りをクラスで共有する中で、Bさんにも頑張ろうという姿が見え、5年生では友だちと協力して係活動を頑張っています。

**徳島** 同じ小学校で勤めています。記録の件ですが、今年の4月から全校生の生徒指導上の情報をデータとして記録するように取り組んでいます。Aさんは家庭的に厳しい状況で、虐待事案で一時保護されたような家庭です。その中でも毎日登校し頑張っていることを評価して、自信をもてるような取組をすすめています。

**三重** 周りの子のAさんに対する決めつけを変えたいと取り組んだ報告ですが、こう変わってきたところが、あまり見えなくて、そこを振り返ってほしいと思っています。そこで、「Aさんは、本当はこうやったんやね」と周りが分かって、そこでもAさんが「自分のこと分かってくれてうれしい」ってなって、繋がっていったという具体的な場面があれば教えていただきたい。もう1つ、人権学習では自分事として考えるというのがありますが、先生にとって自分事とはどういうことが教えてください。

**徳島** 相手のことを正しく知るということは大事なことだと思います。私もクラスの子に対して「決めつけること」について取組を行っているのですが、自分の関わる決めつけには反応するが、広く自分たちの生活の中での決めつけにはまだ気がつけないうところがあります。報告の中の子どもたちに、生活の中で現れた変容があれば教えてください。

**奈良** 子どもの視点に立った取組を進めることは大切だと感じています。そういう意味で、「島ひき

おに」の取組は「きめつけ」をしてしまう子どもの実態に即した取組だと思えます。この取組でAさんはどのような振り返りをしたのかを教えてください。

**報告者** 子どもたちは単学級で育ってきた中で、決めつけや固定観念をすごく持っています。Aさんは家庭的に厳しい面もあり、学校には遅れてやって来ていました。周りの子もそれが当たり前と思っていました。しかし、4年生の終わりにAさんと母親と三者懇談を行い、母親の想いを伝え、毎日登校するようになりました。そのことを周りの子たちに投げかけると同時に、Aさんにも、みんなも分かってくれているということを伝えました。そこから、陸上競技や市の特別支援学級の交流会でプレゼンをするなど、取り組んでいきました。そのことは周りの子も認めてくれるようになりました。

私の変容については、取組がうまくいかなかったけれど、粘り強く対話を続けて少しずつAさんが変わってきたことを通して、粘り強くあきらめずに取り組んでいくことが大切だと改めて思いました。

**報告者** 自分事としては、自分が経験をしてきたことがあると考えることがまず初めだと思っています。今までの取組の中では響かなかったが、今年になってから少し変わってきて、子どもの中から「私は嘘をついて友だちとの約束を破った」ということが出てきました。その問いにどうしたらよかったのかなと返して、考えました。まだ行動に移すところまではいっていないのですが、ゲストティーチャーの話を通して、間違えたり失敗したりしてもかまわない、それをどのように直していくかが大切で、できないときには「助けて」と言えることが大切だということを教えていただいて、子どもたちの間では、係活動で担当のグループの枠を越えて、互いに声をかけあって補い合えるようになりました。

「島ひきおに」の授業後、子どもたちの会話の中で、自分たちも決めつけをしてきたという冷静な判断をする会話が聞こえることもありました。

**奈良** 報告書の「2学期になり運動会が終わった頃…」とあり、「子どもの想いに寄り添った指導ができなかった。子どもの視点で考えられなかった」とあるのですが、ここで報告者がどういうふうに振り返り、どんなふうに揺れて、どんなことに気づかれたのか、それを明らかにすることはすごく大切なことだと思うので、その点を教えてください。

**三重** 私は今、子どもたちに自分自身のことを伝える取組をしています。子どもたちはなかなか話にくいことだと思うのですが、私も「先生も子どもの頃、こうやった」という話をして、自分ができてなかったことを話すようにしています。Aさんが頑張っていて登校しているという話があったと思いますが、Aさんだけでなく、周りの子もAさんが登校するにはどうしたらいいのか考えることが大事で、周りの子

たちが「自分たちもAさんのことを決めつけていた」と振り返っている部分がかかれていないので、どのような振り返りがあり、それをどうAさんに伝えたのか、聞かせてください。まだ、伝えていないのであれば、ぜひ伝えてほしいと思っています。

**報告者** 学級全体としては伝えられていません。また、昨年の事案については、私自身が転任初年度であり、初めての学校ということで余裕がなかったです。そして事案は学校全体のことで、自分のクラスのことかもしれないということで対応しました。その中で子どもたちには「目標がない」ということになり、「将来の自分の夢をかなえるために、今の自分は何をすればよい」ということを考える取組をし、将来仕事をしていくうえで大切なことや苦手な事にも挑戦することの大切さを伝えていきました。

**協力者** ここからは討論に移ります。ご自身の実践を交えながら意見交流できたらと思います。

**滋賀** 感想を紹介することはすごくパワーがいると感じているのですが、先日子どもの発言が自分の意図しない発言で、それを何とかねじ伏せようとしてうまくいきませんでした。そこから、感想の紹介は自分の意図したものだけを紹介していないかと、自分自身の振り返りをしています。また、感想を紹介された子どもはどう思っているのかと考えると、紹介することをとまどっています、皆さんはどのように実践されているか聞かせてください。

**報告者** 報告の中のBさんの感想は私たちの意図するものだったので、その方向に導こうとした意図があったと思います。

**滋賀** 中学生の我が子が、「人権学習の後に感想を書かされるけど、こういう答えを求められていると感じるので、学習がいやや」と言いました。意図的に取り上げたいのですが、多様な意見を取り上げることやありのままの意見を認めていかないといけないのではないかなと感じています。意図に反する意見を最初に押さえているのは学校や自分だと思っています。報告の中に、「Aさんはできるようになりたい」とあるのですが、できないことがしんどくなる学校なのかな、そのことを訴えているのかなと思いました。また、Aさんの登校も、家庭状況を考えると、学校に来るのは当たり前じゃない状況もあると思いましたし、登校したときには「よく来たな」という雰囲気でも迎えられるかということを考えました。子ども以上に多様性を認めないといけないのは自分だと思いました。

**大阪** 感想を紹介する件で、私はこの子の意見はみんなにしみこむだろうと意図した感想を載せていたことがありました。今、全体の総合の時間を担当して、子どもたちの意見をすべて載せています。

「授業がつまらなかった」という感想を載せると、「先生の押し付けがあるから、本当に面白くなかった」という言葉が返ってきました。「こういう経験あるだろと言われても、自分にはなかったし」と言われ、それを聞いていた他の子どもは「でも、あんたにはこんな経験があったやん」と言われ、「ほんまや、そしたらこの経験あるわ」という言葉が返って、感想から繋がることがありました。自分の反省として、これがいいと思う感想は、バイアスのかかったものであったりすると思うようになりました。

また、報告に「頑張る」という言葉が出てきますが、感想の中に「先生、頑張らなアカンの？学校来るだけでいっぱいやねん」という子どももいました。頑張るということ調べて「忍耐」と出てきて、頑張るということは、その課題を本人自身に我慢させているのではないかと学びました。しかし報告には、子どもたちを繋げる実践もあり、自分自身の学びにもなりました。

**香川** 保護者参観で人権学習をし、広く「子どもの権利条約」を知ってほしいと思い、取組をしました。取組は、兵庫県教育委員会のもので了承を取り行いました。子どもたちの身近な権利のカード12枚の中で自分が大事にしたい権利を選び、その次はどれにするかを考えるものです。保護者にも知っていただくいい機会になったので、よかったです。

**奈良** クラスの人数が少なく、すべての子どもの感想を載せ、保護者に伝えていました。保護者からの意見も子どもに返り、学びが深まると考えています。また、一番大事にしているのが傾聴です。自分の価値観で子どもに話してしまうのではなく、子どもの想いをしっかりと聞くことを大切にしています。それで子どもとの信頼関係ができると思いますし、子どももどうするかを考えるといます。以前は学校に行くのは当たり前という価値観があったのですが、今不登校の保護者と関わることで、それが当たり前ではないということも考えるようになりました。

#### —総括討論—

**協力者** 今から総括討論に移ります。実践の紹介と合わせて、ご意見をうかがいたいと思います。

**兵庫** 私もそうですが、教師には思いこみや偏見が多くあります。子どもたち同士でも決めつけが多くあります。その思い込みで判断を間違い、失敗することもあると思います。

もう一つ大切なのは「知る」ということだと思えます。知らないからこそ差別が生まれているところもあります。子どものことをよく知ることが大切です。子ども同士の方が良く知っていることもあります。教師と子どもが同じ土俵に立って見ていくことが大事で、昨日の報告で、「〇〇しないといけないけどできないんや」というのを受けとめないといけな

いということを勉強しました。

**兵庫** 子どもたちの学校以外の様子とか、地域との関わりとかで、まだ報告されていないようなことがあれば教えてください。特に学校自体の取組や教育行政との関りなどを教えてください。

**協力者** 学校としての関わりを、報告者一人一人からお願いします。

**報告者(徳島)** 学校としては、毎学期いじめアンケートをしており、それを基に子どもたちと個人面談をしています。一人一人の想いを聞いています。地域との関わりは、管理職を通して行っています。

**報告者(徳島)** しんどい人の想いを聞いていかなければいけない、そのことで支援し見守るということを今回学ばせていただいたと思います。

**報告者(奈良)** 学校としての関わりは、関係機関や管理職と一緒に情報共有したり、保育所や幼稚園と情報共有し相談したりして、学校としてどう関わるかという話をしています。関係機関の方が直接訪問して関わってくれたこともありました。私が取り組んでいたのが、朝迎えに行き、そこから学校に来る間にいろいろな話をして、家庭の事情も聞いていました。他にも家庭訪問で母親と話をして、家庭での協力をお願いしていました。

**報告者(奈良)** 本当に保護者と毎日のように話をして関わりました。また、校長をはじめいろいろな先生が関わりました。特に、夏休みには学校から離れるので、いろいろな教師が会いに行き、家庭の状況を得ることができ、そのことを市の担当者とも共有して関わっていきました。

**報告者(大阪)** ゆりあとは、教育相談だけでなく、朝の登校時に家の様子を聞いたり、お母さんと話ができるときに困りごとについて尋ねたりしていました。また、SSWから直接電話をかけてもらって、関わりをもってもらいました。

**報告(滋賀)** 本人とは、いろいろと話をしてきました。特に授業を抜け出した時には、話す機会ととらえて話をしました。関係機関との繋がりは、スクールカウンセラーが異性であったことから、うまくつなぐことができず、父親とも市の児童相談所とつなげようとしたがうまくいかず、繋がることができませんでした。卒業までの4か月間で、関係機関に繋がりたいと思っています。

**三重** 討議課題の①として、記録をしっかりと問っていただきたいと思います。実践研究の理念の一つとして、子どもをどう見て、捉えるか、これが具体的なものだからです。メモを取ると、メモがない

子どもがおり、それは自分が見ていないことを表します。わからないままでは実態や課題が明らかになりません。討議課題②は仲間づくりです。自立に向けた仲間づくりというのがあるけれど、自立は共生と対になっていると思います、差別の現実を考えると共生できないと自立できないと思います。そして、報告書には今の取組も書いてほしいと思います。

講演で「同和教育のできる教師になれ、同和教育に取り組むことで、この仕事の意味が見えてくる、自分の人生も見えてくる」と言われた方がいます。これからの若い先生方に同和教育のできる先生になってほしいと思っています。

香川 私は教師に思いこみがあるということに強く印象が残りました。また、私の学校の高学年では「天使ゲーム」というのをやっています。他の子には秘密にその日の天使をつくるのですが、天使を探すために、他の子たちはクラスの子たちを一生懸命観るので、たくさんの良い所を見つけるようになりました。自分の良い所をいろいろな人が見ているという環境を作っていくのも、私たち教師の仕事かなと思っています。

奈良 自分事として考えるのは、経験していることは比較的しやすいが、経験していないことを想像しながら行うのは難しいと思います。また、その子を知ること取組ですが、教師はもちろん、同じクラスの友だちが知ること大切で生活綴りとか感想とかを子どもたちに返していくことは、想像力を補填して自分ごとするのに必要なことだと思います。

また、知るということですが、子どもたち同士が自分のことを話し、知ることのスタートになるので、ペアでの学びは大切だと改めて感じました。

奈良 子どもは繋がりの中で安心を感じ、自分らしさを出し、変われると思いました。生活綴り方はありのままの事実を綴ることで自分を見つめることになり、人と人を繋ぐ力をもっていると思っています。しんどいことを子どもが綴ってくれると、私はそれを受け止めてくれる集団づくりに取り組むだろうなと思って意見を聞きました。

兵庫 今回、居場所づくりの大切さと人との繋がりというキーワードがすごく残りました。そして、以前読んだ「居場所×出番×評価でやりがい、次につながる」ということが頭に浮かびました。子どもにとって安心できる場所で自分の弱さも含めて語れる、自分を認めてくれる場所があって、そこでの出番があって、そして周りから評価されることで意欲につながり、成長につながるのだと思いました。

また、正しく知ることの大切さも感じ、見ようとしないと見えないこと、聞こうとしないと聞けない子どもの声があると思います。子ども同士の繋がり、子どもと教師の繋がり、また学校と地域

の繋がり、関係機関との繋がり、自分にできることを考えて取り組んでいきたいと思っています。

広島 同和教育から人権教育、そしてしりすぼみになっている現状を心配していたのですが、いろいろと取り組んだ報告や意見を聞いて、刺激をいただき私自身も高ぶっています。参加された皆さんに期待していますので、ぜひ頑張ってください。

#### —2日間のまとめ—

協力者 今日の2本の報告では、仲間づくり、確かな自立を求める、暮らしをしっかりと見つめるということを振り返りました。私たちはつい困っている子どもをどうしようという視点になりますが、周りの子どもたちにどうアプローチしているのかというところを改めて考えないといけないと感じました。また、繋がりをつくるということもありました。さらにキーワードとして子どもの暮らしを知るというのがあり、深い意義があると確認ができました。

そういうことを基にして日々の学校生活、子どもたちが登校してきてくれる。それが当たり前でないという学校の中で、子どもたち一人一人に寄り添える教育ができたらと思っています。最後に報告者から感想をいただいております。

報告者(奈良) 自分の中にいろいろな困り感があって、自分だけでは前に進めなかったのですが、この2日間で多くの学びがありました。

報告者(奈良) 自分の未熟さを感じ、先生方の視点と私が気づけていなかったところをたくさん学ばせていただきました。

報告者(大阪) 質問や意見をもらって自分の取組を振り返ることができ、他の意見を聞くことで、新たな視点やまだ取り組んでいないことなども学ぶことができました。

報告者(滋賀) 子どもに対する熱さや温かさを感じることができました。また、未熟な面や偏見をもっている面も気づかされました。今回学んだことを現場でアウトプットしていきます。たくさんのごことを学ばせていただきました。

報告者(徳島) 教えていただいたことをこれからの実践に活かしていきます。まずは自分自身を振り返って、子どもたちが互いに知り合えるように取り組んでいきます。

報告者(徳島) 思いこみや差別性があったりして、若いときに同和教育に関わった時のことがうまくリンクしていなかったと感じるところがありました。今回教えていただいたことをもう一度振り返って、子どもたちの前に立ちたいと思います。